

農林水産省で働くとは

農林水産省大臣官房秘書課

今日お話すること

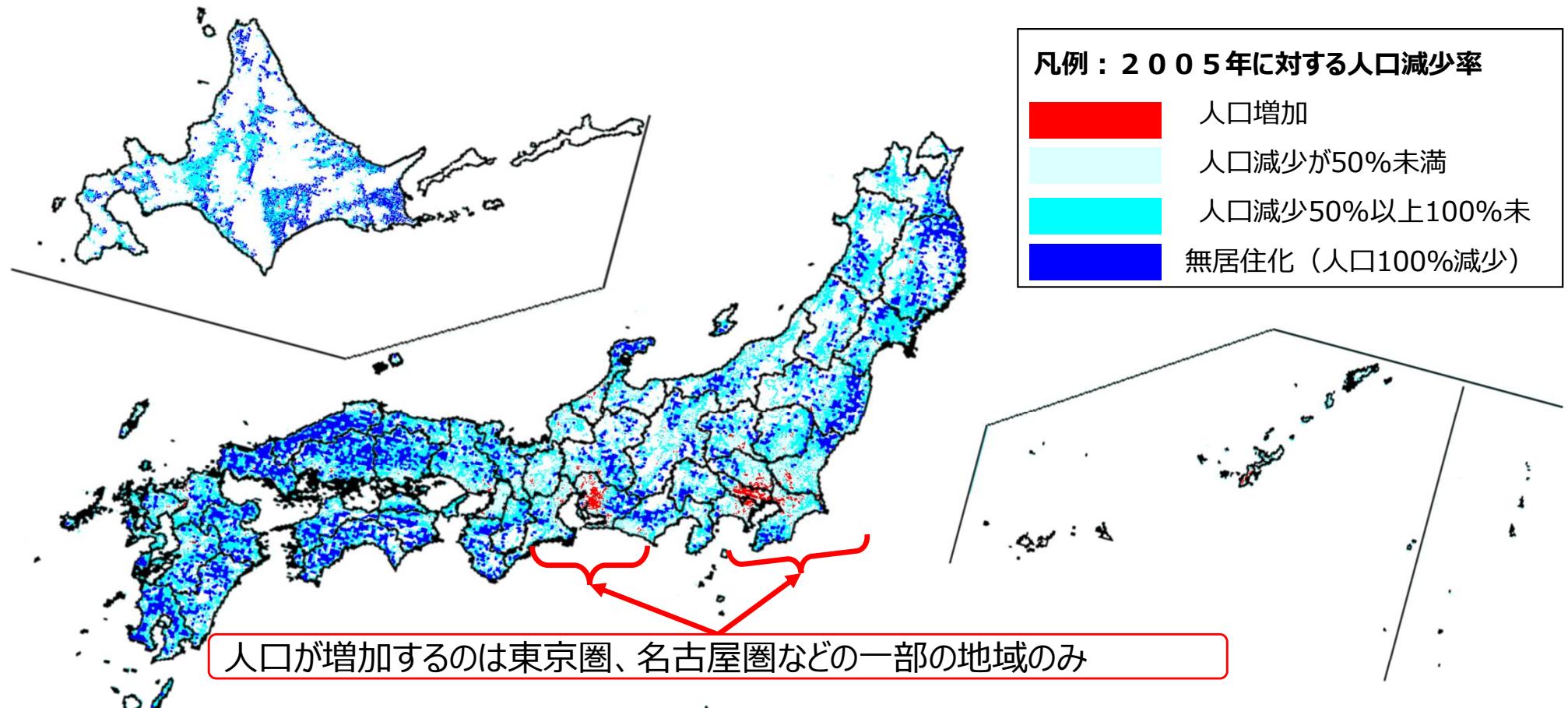
1. 農林水産省が取り組む課題

2. 農林水産省のミッション

3. 農林水産省の職場環境

日本の課題：人口減少と過疎化

大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率が日本全体の人口減少につながっている。



資料：H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

- ・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。
- ・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

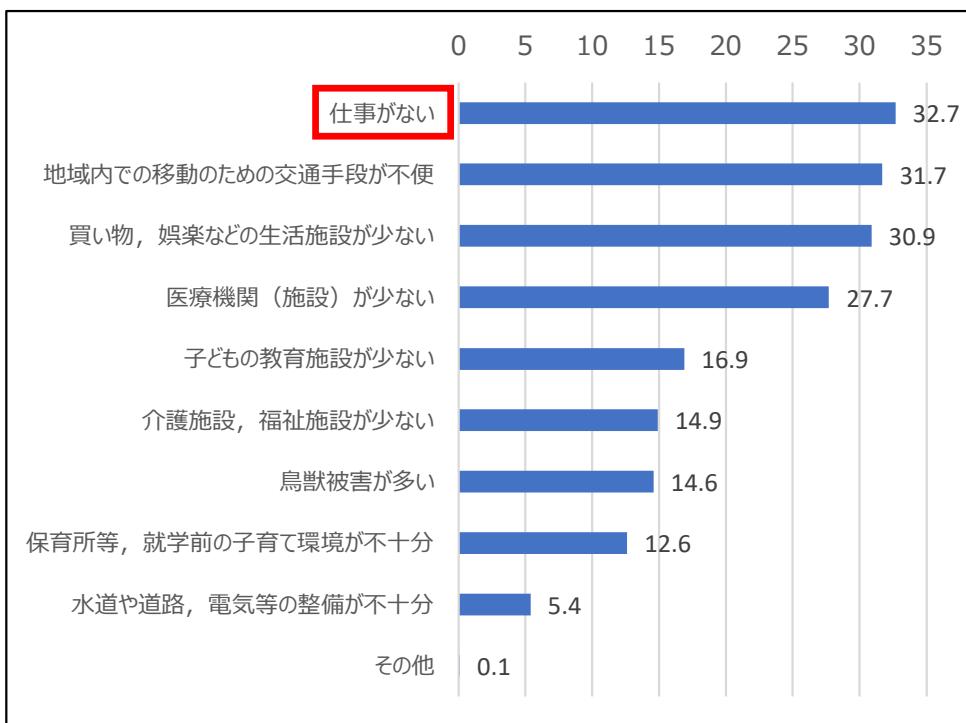
- ・ 人口減少・過疎化は地方だけではなく日本全体の課題



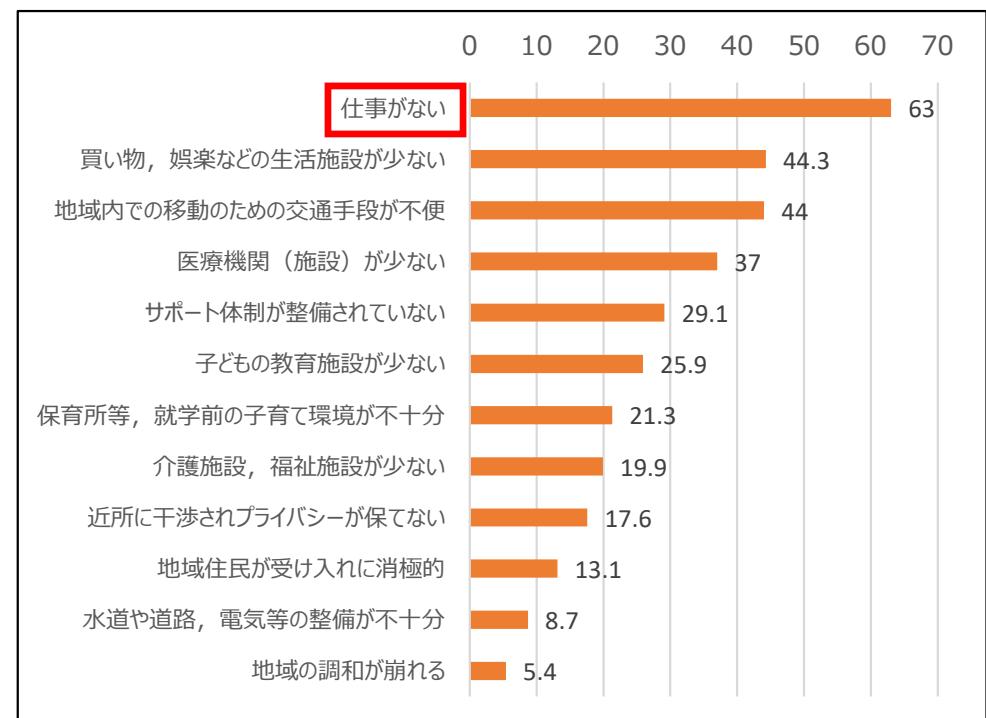
なぜ過疎化するのか

- 農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

(農山漁村地域住民に対し) 農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



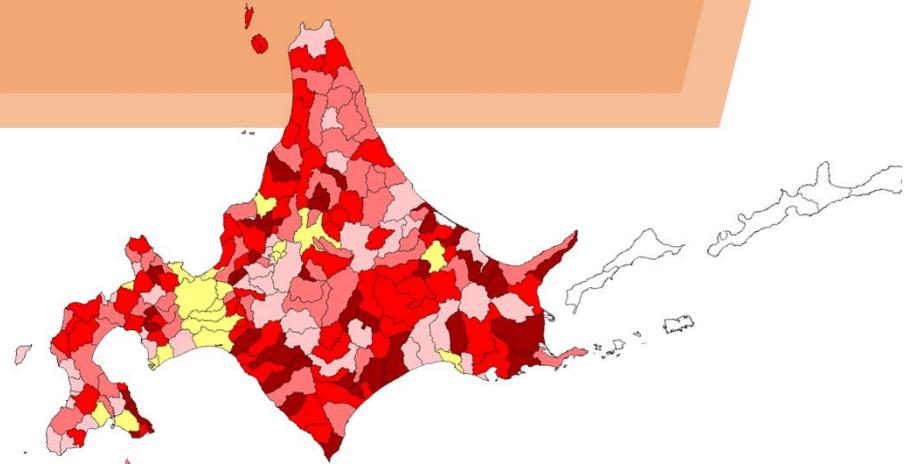
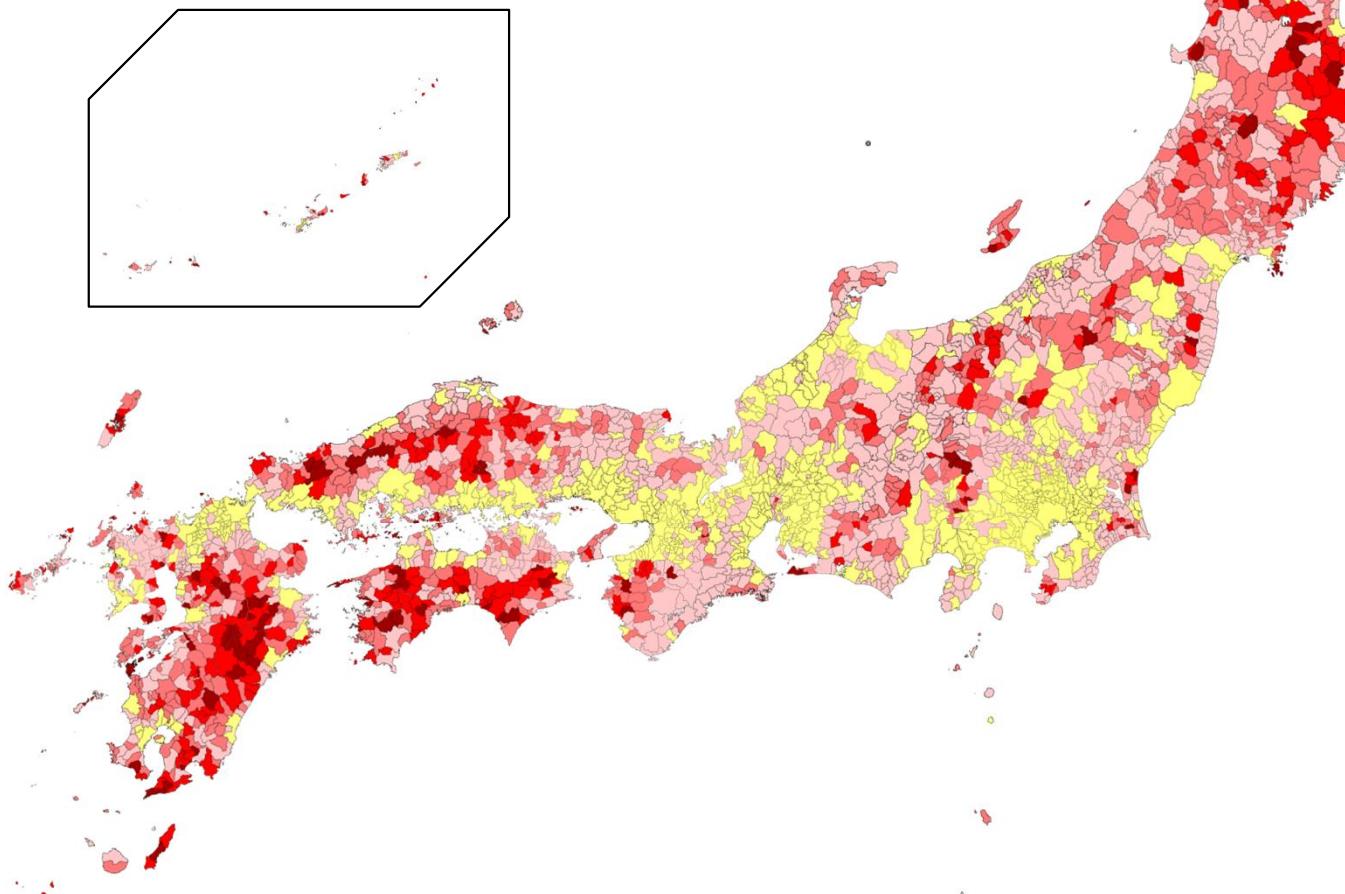
(農山漁村地域住民に対し) 都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

- 仕事はある。農林水産業が。



1. 全国の就業人口に占める第1次産業就業者の割合の平均は約4%。
(H22国勢調査)

2. 旧市町村（注）ごとに見ると、第一次産業就業者の割合が5%以上の市町村（注）は全体の73.5%（2,375市町村）、面積では78%を占めている。

注：平成の大合併前の旧市町村（H12.10.1時点、計3,231市町村）で集計

【1次産業就業者の割合】

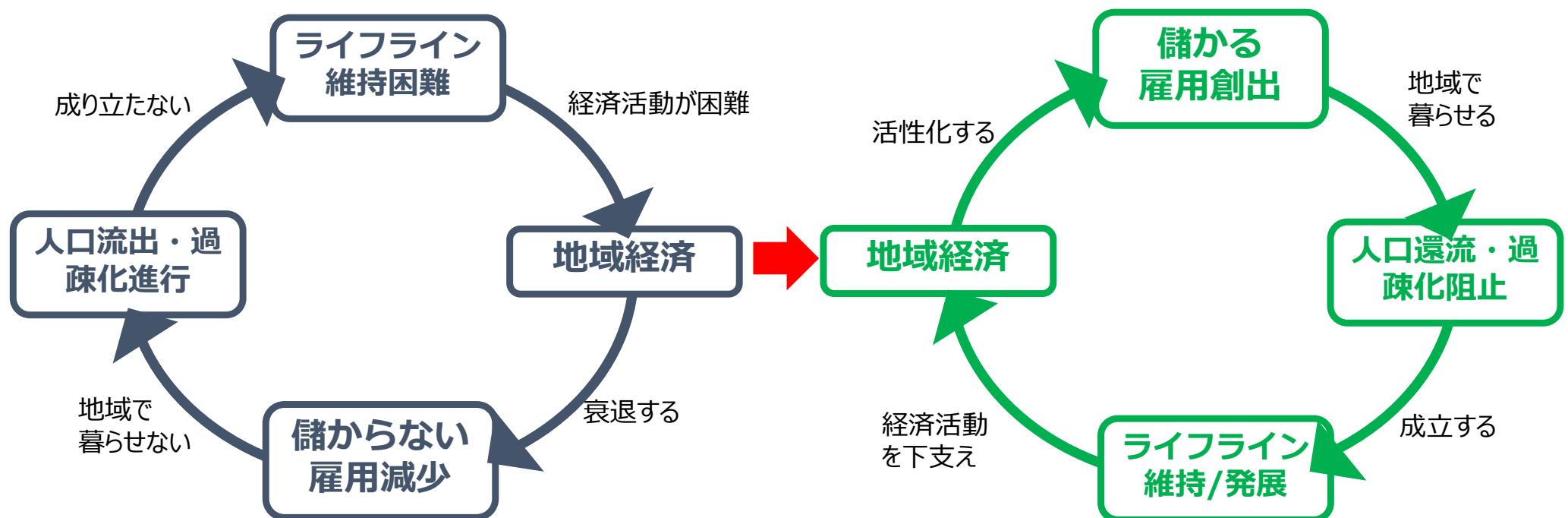
… 35%以上
… 25%以上 35%未満
… 15%以上 25%未満
… 5%以上 15%未満
… 5%未満

H22国勢調査をもとに農林水産省で作成

問題は、魅力的な就業先ではないこと

- 問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

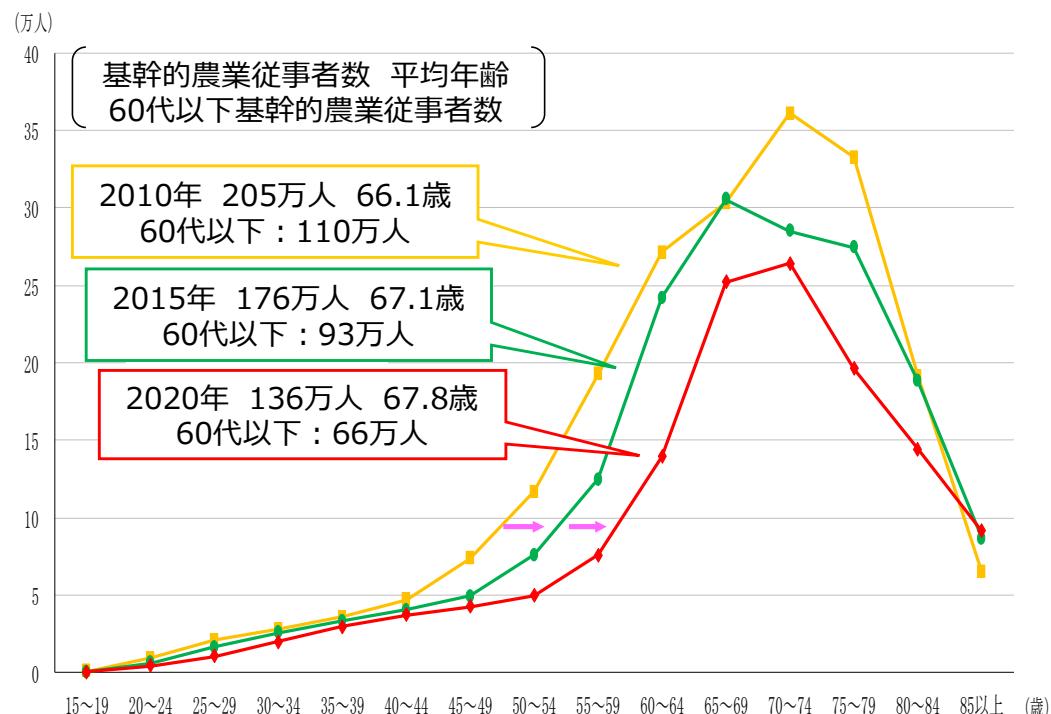
→ 儲かっていない・十分な雇用を確保できない



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢67.8歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

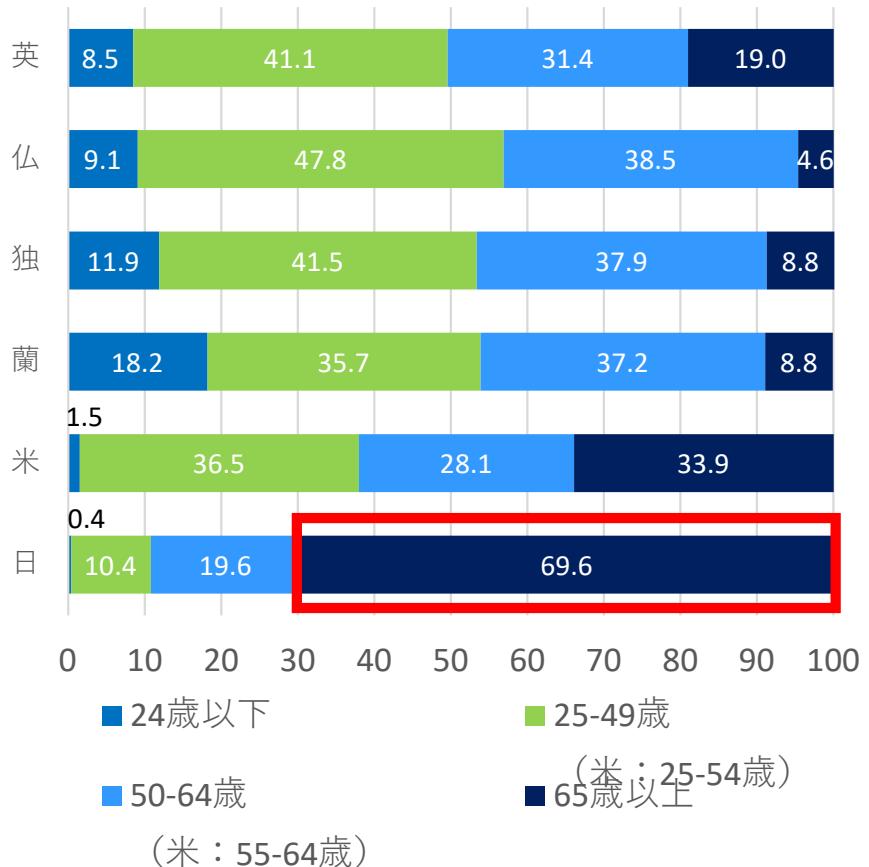
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成



【資料】

英は、EUROSTAT(2019) : 農業に従事した世帯員

仏独蘭は、EUROSTAT(2020) : 農業に従事した世帯員

米は、米国農務省「2017年農業センサス」

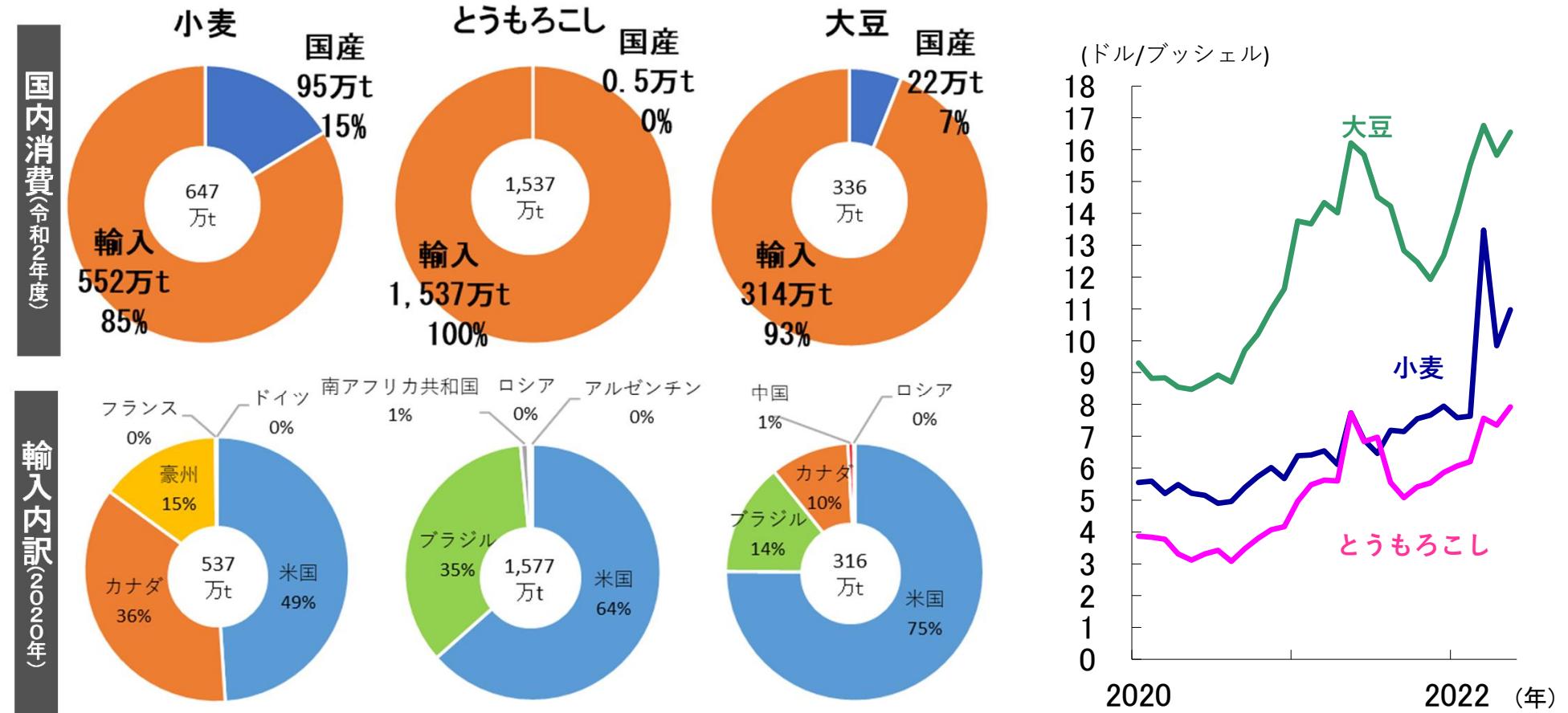
日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)

：農業に従事した世帯員

：基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく輸入に頼っている。一方で、気候変動や新興国の輸入需要の増加、ウクライナ情勢により、相場は高騰



注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。

注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年産）。

輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。

注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。

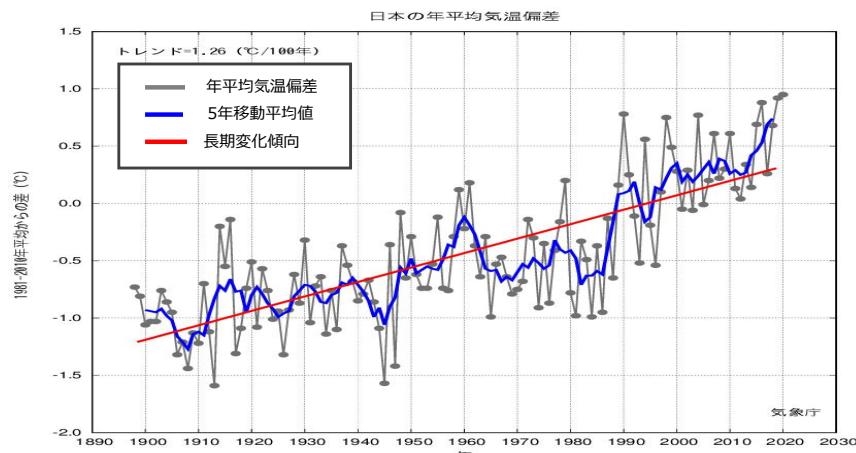
注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費＝国内生産+輸入と仮定。

注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

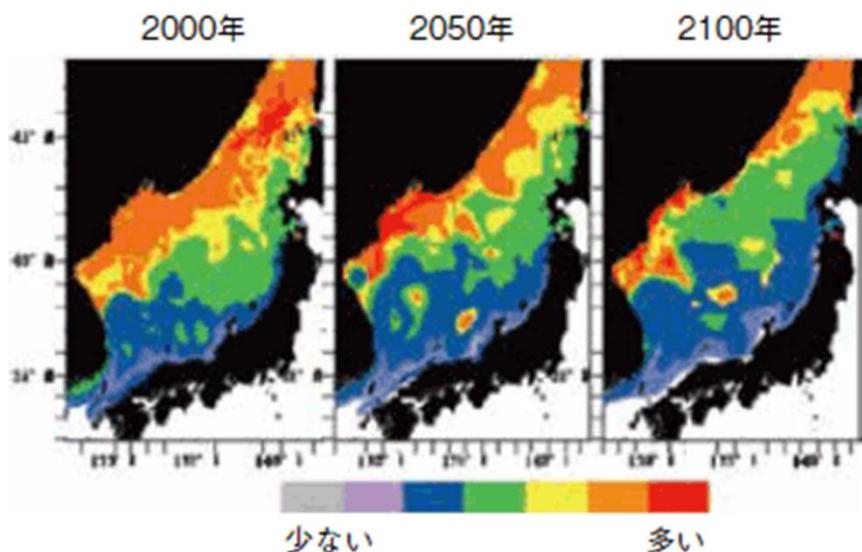
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26°C**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



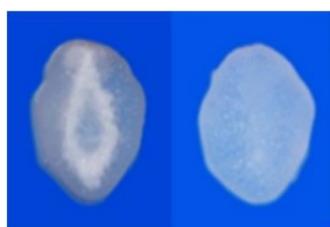
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・水稻：高温による品質の低下
- ・リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面

